

受講番号 18097 学校名 八束中学校 氏名 下村 忠久

## 研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第2学年 生徒数 11 名  
 科目名 第2学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (開隆堂)

## クラスの様子・特徴

2年生は、11人(男子8人、女子3人)と少人数である。学級の雰囲気は、明るく活発で楽しみながら英語で表現しようとする姿がみられる。だが、書く活動になるとスペルミスや語順の不正確さがみられ、「書く」活動への苦手意識をもっている。

## 問題の確定

・書く力をのばしていく必要性があり、語彙を増やすと共に、語順の定着をいかにして図って行くかが課題である。

## 予備調査

## A 授業の観察

・「話す」活動には積極的ではあるが、「書く」活動になればスペルミスが目立ち、また語順が理解されていないため取り組みが大変消極的となる。  
 ・教科書の内容読解では、大まかな読解はできるようなが、細部にわたる読解には苦手意識を持つ生徒が多い。

## B 生徒による授業評価

生徒による英語意識アンケート  
 ○英語の学習で困難を感じている項目  
 「英文を作ること」82% 「長文を読むこと」64%  
 「英語を話すこと」36% 「英語を聞くこと」36%  
 ○ALTとの授業など英語を楽しく話したい(82%)

## C 学力データ

観点別到達度学力テスト(平成18年2月14日実施)の全国比  
 「文字などの知識を身につけること」82%  
 「書き手の意向を理解し応じること」85%  
 「英文の内容を正しく理解すること」89%  
 よって「書くこと」「読むこと」に弱さがあると言える。

## リサーチ・クエスチョン

自分の思いを英語で表現するための基盤として、基礎的な単語の定着や語順の定着を図るためには、どのようにすればよいか。

## 仮説・実践・検証

## 仮説1

基本的なフォニックスのルールを学ぶと単語が読めて書け、単語を覚える意欲が増し、語彙の定着ができるのではないかと。

## 実践1

・単語を発音する手がかりとして、授業のなかでフォニックス指導をし、音読筆写させた。  
 ・発音練習として、フラッシュカードで発音練習をした。  
 ・授業のはじめにディクテーションを取り入れた。

## 検証1

「アンケート結果」より、「はっきりとはよく読めないが、想像しながら読めた」との感想もあり、フォニックス指導は単語の読み方を類推して読めるようになることへの手助けとなったと言える。ただ、書きにつながったとはいえない。授業のはじめにディクテーションを行ったが、その時点では覚えられている単語も、後日まとめのディクテーションをおこなうと忘れていた単語が多く、語彙の定着という点では課題が残る。

## 仮説2

語順指導を行い英語のルールに慣れることで、表現したいことを自分で英語に直そうとする姿勢が生まれ、自己表現能力が向上するのではないかと。

## 実践2

・黒板に「だれが(は)」「どうスル」「何を」「どのように」「どこで」「いつ」と掲示し常に語順を意識させた。  
 ・「英語の語順ドリル(正進社)」を基に語順指導用のワークシートを作成し、学習した。  
 ・「自己表現お助けブック(教育出版)」のパンチゲーム表を基にペアワークをしながら語順についての強化をはかった。  
 ・英検5・4級の並べかえ英作問題を解いた。

## 検証2

英検5・4級の並べかえ問題を5問、月に2回実施した。内容は主に5級の中から抜粋した。その結果、クラス平均は1回目3.1、2回目2.8、3回目3.1、4回目2.3、5回目3.3であった。データから見ると大きな効果はあったとは言えないが、「だれが」「どうスル」という基本的な語順は、日本語の語順にとらわれることなく意識付けがなされてきたといえる。

## 仮説3

教科書の「読み物教材」でスラッシュリーディングを取り入れることにより、構文や語順を意識した読み取りができるのではないかと。

## 実践3

・スラッシュの入れ方の指導をした。スラッシュは基本的に「誰が」「どうスル」の後に入れ、次に「何を」のところで、その後は意味の区切れ、つまり前置詞句ごとに入れていった。この作業を、一斉指導から個別指導へと導き、途中よりAノートと称して生徒への課題とした。  
 ・このAノートをもとに、ペアワークを行い「英語から日本語へ」「日本語から英語へ」チャンクごとに言い合った。

## 検証3

スラッシュリーディングの手法に当初は戸惑いを見せていたが、次第に「自分で区切って訳すのが楽しい。」「何となくわかってきた。」と実感する生徒も増え、自ら課題に取り組む生徒が多くなった。スラッシュリーディングをする中であらたな課題となったのは、前置詞句の意味のとらえ方に困難を感じていることがアンケートよりわかった。

## 研究の成果

アクションリサーチについて手探りで、計画を立て実施したため、仮説を実証するにふさわしいものとはいえなかつたかもしれないが、3つの仮説など取り組んできたことは、生徒にとって効果があったと思う。仮説1では、語彙の定着という点においてはまだ課題が残るが、フォニックス指導が新出単語を類推しながら発音したり単語のスペルを思い出す時の手助けとなったといえる。仮説2での語順トレーニングでは数値的な効果が現れたとはいえない。仮説3でのスラッシュリーディングは「自分で区切って訳すのが楽しい。」「何となくわかってきた。」と実感する生徒も増え、語順を意識した読み取りができるようになる手法の一つになった。

## 今後の授業改善の課題

ディクテーションがあるから、単語を覚える練習をするという生徒の意識に、あまり変化が見られなかった。今後語彙の定着のために生徒自ら継続的かつ自発的に学習できる方法を考えることが課題である。単語コンテストやレベル別に単語集を作成し、それをクリアすれば認定級を与えることなどができそうである。英語を大変苦手としている生徒への語順の習得指導方法を模索していきたい。